

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 陸前高田市グリーンな栽培体系推進協議会
都道府県 岩手県
対象地域 陸前高田市
対象品目 いちご（施設栽培）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

岩手県沿岸南部のいちごの経営体では、病虫害の被害を抑えるため、化学農薬を用いた定期的な防除が実施されている。一方、薬剤散布には多大な労力を要することや、アザミウマ類、ハダニ類等の害虫は薬剤抵抗性が発達しやすいことから、化学農薬に替わる技術の導入が求められている。

化学農薬に替わる防除技術として、物理的に害虫の侵入を阻害できる防虫ネットと、ハダニ類に有効な天敵製剤「ミヤコカブリダニ」及び「チリカブリダニ」を組み合わせ、化学農薬の使用量低減等省力化が図られる防除体系の普及を目指す。

現在の栽培体系

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	備考
主な作業名					● 定植										
技術名															害虫防除



グリーンな栽培体系

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	備考
主な作業名					● 定植										
技術名															害虫防除

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	0.74 ▶ 0.74		
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0 ▶ 0.39		
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0 ▶ 0.39		
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0 ▶ 0.39		

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	防虫ネットの導入 天敵製剤の導入	化学農薬の使用回数の削減 農薬散布にかかる労力の低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	品目	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	いちご	34	31	殺虫剤（殺ダニ剤）の使用回数を削減 天敵製剤「ミヤコカブリダニ」、「チリカブリダニ」を導入

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

管内の施設野菜生産者に対し、JAおおふなとや大船渡農業改良普及センター等が開催する指導会や研修会等で、取組事例の紹介を行う。また、技術導入した生産者に対して、JAおおふなとや大船渡農業改良普及センターが巡回指導等を通して技術的な助言を行う。
以上の取組を通して、管内におけるグリーンな栽培体系の普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	実証農業者	大船渡農業改良普及センター	JAおおふなと	陸前高田市
役割	・取組事例紹介時の助言 ・情報発信	・取組事例の紹介、導入促進 ・技術導入状況の把握 ・技術指導 ・情報発信	・技術指導 ・取組事例の紹介	・取組事例の紹介 ・活用可能な補助事業の紹介